

J R 烏山線利用促進特別委員会活動報告

当委員会では、2月3日、4日の2日間にわたり秋田県男鹿市及びJ R 男鹿線の視察を行いました。

研修内容は以下の3点です。

1. 「アキュムでつながる烏山線×男鹿線エキタグスタンプラリー」への参加
スマートフォンを使用し、各駅に設置されたN F C タグを読み取ることでデジタルスタンプを集める「エキタグアプリ」を体験しました。今後の利用促進の取り組みとして注目されます。

2. 男鹿線存続に関する男鹿市の施策の調査

男鹿線は追分駅～男鹿駅間の9駅のうち6駅が無人駅ですが、全駅でS u i c a が使用可能です。2両または4両編成で運行され、トイレ付き車両もあります。男鹿市では公共交通利用促進に向けて、毎月1回「ノーマイカーデー」の実施や、市営バス11路線との連携、ナマハゲのラッピング列車の運行など、各種施策が展開されています。

3. 男鹿駅周辺の再開発について

平成30年に男鹿駅舎が約200メートル移転・新築され、同時に「道の駅おが」が開業しました。開業以来、来場者数や売上は増加傾向にあり、令和5年度の来場者数は約60万人に達しました。男鹿市全体の年間観光客数は約200万人とのことです。

今後、男鹿市やJ R との連携を深めるだけでなく、地域交流や文化交流を通じた発展の可能性についても検討していきたいと考えています。

J R 烏山線利用促進特別委員会 委員長 高木洋一



男鹿市の取組について説明を受ける委員